



男女共同参画推進室ニュースレター

olive・heart

授乳・搾乳・妊婦の休養室を新たに整備しました



男女共同参画推進室

男女共同参画推進室では、各部局にお願いし、授乳・搾乳・妊婦の休養室を兼ねる部屋を整備しました。下記の部屋が利用できます。安心して使っていただけますので、妊娠期の休養や復職後の搾乳、おしめ換え等にご利用ください。

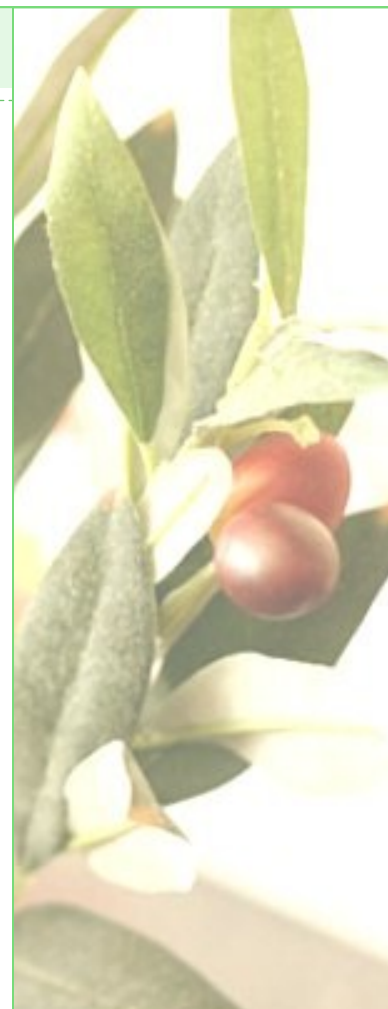


医学部 女医当直室

学部	場所	整備備品
工学部	「自習室3」 工学部新棟5階	ソファベット・冷凍冷蔵庫・電動搾乳機・ サイドテーブル・パーテーション
医学部	「女医当直室」 大学病院東病棟7階	ソファベット・空気清浄機・冷凍冷蔵庫・ 搾乳用椅子・サイドテーブル・電動搾乳機・ パーテーション・プレイヤード（簡易ベビーベッド）
幸町 キャンパス	「男女共同参画推進室」 北5号館1階	ソファベット・空気清浄機・冷凍冷蔵庫・ 搾乳用椅子・サイドテーブル・電動搾乳機・ パーテーション・プレイヤード（簡易ベビーベッド）
教育学部	「休養室」 北2号館1階	ソファベット

※農学部では、従来通り保健管理センターにご相談ください。

個人貸出用のプレイヤード（簡易ベビーベッド）や搾乳機も用意しております。
研究室でご利用いただけますので、ご遠慮なく推進室にお問い合わせください。



目次:

休養室整備.....	1
研究補助者配置事業.....	2
学童保育学習会	2
「SOKUS」の活動について.....	2
研究者をめざす	3
勤務への配慮事項について	4
WLB応援ハンドブック.....	4



研究を補助者が
あなたをお手伝い



【メモ】高松市こども未来局

平成23年度より高松市では、現在の保育課、こども未来課の全業務に加え、教育委員会の幼稚園と学童保育に関する業務を移管し、健康福祉部に新設する「こども未来局」で一元的に担当することになりました。「こども未来局」は、子育て支援や女性相談などを担当する「子育て支援課」、子ども手当やひとり親家庭の自立支援などを担当する「こども家庭課」、市立幼稚園と保育所を担当する「こども園運営課」の計3課で構成されます。

新制度の導入を見据えて、部局の統合で質の高いサービスの提供を目指しています。

被災地の子どもたちに保育を

このたびの東日本大震災にて被災された地域の皆様、関係の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

東北関東大震災で、たくさんの保育施設も被災しています。保育所は子どもたちの安心できる大切な生活の場です。

一刻も早く、被災地の子どもたちに保育を取り戻せるように、復興にむけて救援募金にご協力ください。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

全国保育団体連絡会
「東日本大震災救援募金の呼びかけ」
<http://www.hoiku-zenhoren.org/news/data1/110317-164922.html>

研究補助者を自然科学系女性研究者に配置

男女共同参画推進室では、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」を活用し、平成22年10月より自然科学系女性研究者のさらなる研究の充実をめざし「研究補助者」を配置しています。平成22年度は13名が採択され、平成23年度は11名の方が利用しています。効果の評価として外部資金獲得を挙げていますが、期間中に13名中9名が科学研究費補助金等に挑戦し、3名は継続課題に取り組んでいます。

コーディネーターが利用者へのヒアリングを実施したところ、「研究をゆとりを持って取り組むことができた」「学会の活動や研究取り組みが飛躍的に進んだ」「たまっていたデータ処理を片付けることができた」「（業務の都合で）データと取り落とすことがなくなった」「何とか多忙の中でも科研費の応募に間に合わせる事ができた」と評価する声が寄せられました。

育児等に取り組む男性研究者や社会科学系の研究者のニーズにどう応えるかの課題は残りますが、後期も研究補助者の事業を試行的に行ってまいります。

詳細は男女共同参画推進室のホームページをご覧ください。
<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/jyosei/hojyo.html>

学習会「豊かな学童保育の可能性」



3月15日「学童保育の豊かな可能性」をテーマに学習会を男女共同参画推進室とワークライフバランス支援室の共催で実施しました。

学童保育は、地区や施設によって制度も異なり特色があります。施設によっても取り組みもさまざまです。今回は、岡山県学童保育連絡協議会より角野いずみ副会長と青野雅世事務局長にお出でいただき、先進的な保護者参加型の学童保育の取り組みについて学習を深めました。

生き生きとした子どもたちの活動とそれを支える親の会の組織作り、行政との協働体制など、具体的な事例も交えてお話いただきました。

また、近隣の市町村からも担当職員に参加いただき、現在の高松・三木町の学童保育の状況、平成25年度の「子ども子育て新システム」導入後の制度改変にむけて、国の動き等についてご助言いただきました。

「SOKUS」の募金にご協力ください



香川大学に学生災害復興支援グループが立ち上がりました。

その名も「SOKUS(Supporting Organization by Kagawa University Students)」です。3月11日の東日本大震災の復興のためのいち早くグループを結成。募金活動を始めました。

グループのリーダーは法学部3回生の山中咲さんです。愛媛大学で募金を始めるというメールをもらい、香川でも何かできないかと周囲に相談を持ちかけたところ、賛同した友人がさらに友人にメールして呼びかけ、瞬間に輪が広がり50人のメンバーが集まりました。女性と男性の割合は同じくらい。

募金活動は日本赤十字社が受けつける9月30日まで息長く続けたいとのこと。入学式でも、新入生の歓迎イベントでも募金活動をしました。JR高松駅やコトデン瓦町駅でも定期的に活動しています。今も仲間を募集中。ほとんどのメンバーがこういった活動は初めて。学部や学年も全く違うメンバーが意見を出し合い、自分たちがすべきことを模索しながら活動を続けていきたいとのこと。ぜひみなさんご協力ください。

ホームページ <http://sokus.web.fc2.com/>

シリーズ 「研究者をめざすあなたからメッセージ」

農学部技術補佐員の方に研究者をめざす素敵な女性がいてとあって多田研究室技術補佐員の滝川祐子さんにインタビューにおじゃましました。テーマは「魚の絵」と生物学についての研究です。

魅了されたお魚の絵は、『衆鱗図』（しゅうりんず：うろこを持つ全てのものの図、という意）という博物図譜です。この図譜は今から約250年前の江戸時代、高松藩主松平頼恭（よりたか）が平賀源内と多くの絵師を使って作らせたと考えられる、700点を超える魚介類の図が描かれた博物図譜で、香川県立ミュージアムに保管されています。滝川さんはもともと美術や歴史に関心があり、国際関係学部を卒業後、考古学にあこがれイギリスに留学。高松に戻り、派遣社員をしながらも研究の道をあきらめきれずにいました。2003年香川県立歴史博物館（当時）で短期間資料整理に携わる機会があり、運命の『衆鱗図』に出会いました。魚の知識は全くなかったけれど、生物学的な価値が高いのではないかと直感し、これから取り組むべき研究はこれだと思い、少しずつ魚の勉強を積み重ねた結果、4年後2007年、福武学術文化振興財団の助成を受け、本格的に研究をスタートさせることができました。



農学部多田研究室
技術補佐員 滝川祐子さん

“困難があっても推進力が湧き出てくるような「やりたいこと」を選ぶ”

人文社会学系の滝川さんにとって、図譜に登場する魚の情報収集もひと苦労でした。しかし派遣の取材の仕事で出会った水産系の研究者と漁業関係者の協力とご自身の努力の甲斐あり研究を進めることができました。研究はそこにとどまらず、先行研究の分析とオランダでの粘り強い現地調査の結果、『衆鱗図』の転写図の一部がシーボルトとともにオランダに渡り、海外の博物学にも影響を与えていたことを実証するチャンスを得て、『衆鱗図』が世界の生物学・魚類学史上、大変価値が高いことを証明するに至りました。

そしてこの研究を契機に、香川大学農学部多田邦尚教授と出会い、縁あって現在のキャリアにつながりました。教授の理解もあり、学術担当の田島理事からも「挑戦してみたら」と背中を押してもらい、技術補佐員の仕事をこなしながら、科研費若手（B）や地域貢献研究費等を獲得して研究を進め、海外の現地調査や国際学会での発表にも意欲的に取り組んでいます。

滝川さんの研究に対する情熱は、恩師の「困難があっても推進力が湧き出てくるようなやりたいことを選べ」という一言が大きな支えになりました。そして、実際に取り組める研究テーマを分野を超えて選ぶことに繋がりました。『衆鱗図』に始まった生物学の歴史学的研究は、江戸時代のまだ知られていない先人たちの努力を再評価する取り組みとして広がっています。

海外の学会に出向いた時、女性の研究者の数と年齢層の厚さに驚かされたそうです。頑張っている女性の先輩たちの存在が後輩のロールモデルとなり、大きな実績を残し、ソフト面でもハード面でも環境を整えていく。紆余曲折することに無駄なことは何もなく、たくさんの出会いの中で、協力者や研究テーマとの出会いがある。

取材した2時間、生き生きした瞳でご自身の研究を熱く語る滝川さんの熱意に元気をたくさんいただきました。



olive・heart相談室

男女共同参画推進室では、コーディネーターが両立支援について相談に応じています。妊娠や出産、介護などで困った時、利用できる学内の制度や休暇について、関係課と調整し、情報提供します。困ったなと思ったら、男女共同参画推進室をおたすねください。

保育園や学童保育、病児保育についてもご相談いただけます。お忙しい方は出張相談にも応じています。

まずは087-832-1055へお電話ください。

平成23年度男女共同参画推進室

昨年度は、みなさまに大変お世話になりました。
平成23年度もよろしくお願いいたします。

室長 高木 健一郎
副室長 長安 めぐみ（コーディネーター）
室員 深田 由佳
佐々木 美奈

女性研究者支援員

部局	職名	氏名
教育学部	准教授	松井 剛太
教育学部	准教授	片田江 綾子
法学部	准教授	平野 美紀
経済学部	准教授	朴 恩芝
医学部	教授	名越 民江
医学部	准教授	塩田 敦子
医学部	准教授	上野 正樹
医学部	助教	森上 純子
工学部	教授	石井 明
農学部	教授	京 正晴
連合法務研究科	教授	柴田 潤子

女性研究者育成員

部局	職名	氏名
教育学部	教授	風間 喜美江
法学部	准教授	平野 美紀
経済学部	准教授	朴 恩芝
医学部	助教	森上 純子
工学部	助教	中島 美登子
農学部	准教授	杉田 左江子

その他

部局	職名	氏名
人事G	リーダー	枝川 幸司
研究協力G	リーダー	阿部 祐一
給与福利G	リーダー	森田 英正
給与福利G	サブリーダー	小西 誠二
給与福利G	グループ員	小西 民恵



香川大学男女共同参画推進室

香川県高松市幸町1-1
北5号館1階

電話：087（832）1055
内線：1055
FAX：087（832）1057
電子メール：

sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp

ホームページ：

<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/>

子育て等に取り組む教職員への配慮事項について

本学では「教職員が教育・研究等と育児等を両立させていくための配慮について、男女共同参画推進委員会より申し送りをしております。会議の開催時間や業務負担の軽減、会議の出席等に加え、休日の入試業務への配慮も加えています。各部署より申し送りがありますのでご確認の上、ご協力をお願いいたします。

ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック



男女共同参画推進室では「ワークライフバランス応援ハンドブック～仕事も家庭も大切にしたいあなたに～」を作成、各部署に配布しました。

みなさまのワーク・ライフ・バランスを応援する学内の様々な制度・休暇等をご紹介します。

必要な方は男女共同参画推進室（内線1055）までご連絡ください。



ライフイベントごとに制度を紹介

キャンパス周辺の保育所や学童保育も地図で紹介しています